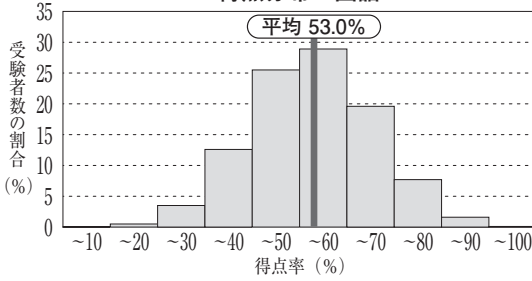


テストは受けた後が重要。しっかりと復習し、夏休みに向け、勉強を着実に進めていこう！

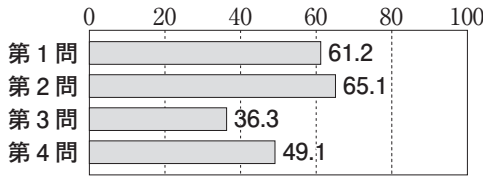
I. 全体講評

6月の「全国統一高校生テスト」の国語の平均点は一〇五・九点（二〇〇点満点）であった。これは、前回4月の第二回の「センター試験本番レベル模試」よりは若干下がったが、1月の「センター試験同日体験受験」、2月の第1回の「センター試験本番レベル模試」からすると確実に上昇

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



しており、学力はついてきているようだ。ぜひ、この調子で今後も勉強を続けてもらいたい。

ただし、古文（第3問）については、まだ勉強が十分とは言えないようだ。古文は重要古語や古典文法の重要知識をつけることで、文章も理解できるようになる分野である。特に、問1などは、重要知識を身に付けられれば、すぐに得点に結びつくが、問1(ウ)の正答率が四割を切っていると考えると、古文の勉強ができていないといえるようだ。重要古語と、読解のために重要な文法事項について、早急に確認しよう。重要知識を身につけた状態で、夏に古文の読解問題を解きまくることが出来るようにしよう。

漢文（第4問）については、まだまだ満足できる状態ではないが、それでも前回から少しずつ、得点が伸びている。重要漢字や句法について引き続き勉強を進めていこう。重要漢字と句法を覚えたらあとは多くの問題にあたって読解に慣れることと、覚えたとはいえないことを確認しつつ進めていこう。

現代文については、前回は得点率が五割台であった評論（第1問）は六割を超え、小説（第2問）については六割五分を超えた。着実に力がついてきているようだ。ただし、落としてはいけない設問を落としている人もいそうだ。成績が良くな

かった諸君はもちろんだが、総合点としてはまずまずであった諸君もこれに油断せず、着実に成績を伸ばせるように努力を続けてもらいたい。

さて、いよいよ「受験の天王山」と言われる夏休みが目前に迫ってきた。この夏、どれだけのことかができるかで、秋以降、大きく得点を伸ばせるかどうかが決まってくる。国語についても時間をかけて地道に学習を重ねなければならぬことはたくさんある。今回の模試の復習を着実にに行い、それを踏まえ、「自分は国語でどこまで点数を伸ばさねばならないのか」「自分に必要なことは何か」「どのくらいの時間をかけるのか」を考えて今後の学習計画を立ててほしい。次回の「第3回8月センター試験本番レベル模試」に向けて、具体的な目標を立て、足もとをしっかりと固める学習を粘り強く続けてほしい。

II 大問別分析

第1問 (評論)

漢字など知識事項を確認しよう。また、長い選択肢は短く区切って適否をチェックしよう！

第1問の得点率は六一・二%で、第1問全体としては、まずまずの出来であった。

問1の漢字問題は、(エ)「弄」が二八・六%、(オ)「相克」が四二・一%で正答率が低かった。同音異義語や同訓異字は、同じ漢字が様々な模試や入試で何度も出題されるので、正解以外の選択肢の漢字も含め、書けない字は練習しておいてほしい。漢字問題集なども利用して、夏までに重要漢字は覚えておこう。

問2は、資料の読み取りに加えて会話のつながりを意識して答えなければいけない問題で、正答率は四六・六%と低かった。空欄後の「生徒D」の台詞で「功罪」とあることに着目できるかがポイントであった。間違った人は解説を熟読してほしい。

問3・問4の正答率は七二・八%、七六・三%で、概ね良い出来であった。

問5の正答率は五〇・一%。傍線部の難易度自体は問3・問4と変わらないはずだが、解答根拠の範囲が広く、三行選択肢であったことが正答率を下げた原因であろう。長い選択肢を読むときは、漠然と全体を見るのではなく、選択肢を短く区切り、一つ一つの内容の適否を丁寧にチェックするようにしたい。

問6(i)の正答率は五八・五%、問6(ii)の正答率は四九・五%であった。(i)は③の誤肢を選んだ人が二七・七%と多かった。③で述べているような「括弧の用法」はセンター試験だけでなく、各大学の一般入試でも問われることがあるので、これを機に理解を深めてもらいたい。

第2問 (小説)

小説を包んでいる時代背景を過度に意識せずに、冷静な読解をこころがけよう。

今回の第2問は得点率が六五・一%で、今回の四問中では最も高い結果となった。文章量は本年度のセンター試験とほぼ同じで、読み解くのにそれほど支障は来たさな思われる。太平洋戦争末期を思わせる時代背景に少しとまどった形跡が見られるが、基本的には、父と子の汽車の中でのやりとりが主題となっているという点では理解は得やすかっただろう。センター試験の国語の中で、小説は得点源になりやすい。ぜひとも、満点を目指していききたい。

問1では(ウ)の「呆気にとられている」の出来が極端に悪く、正答率はわずか二六・八%だった。「呆」の訓読みが「あき(れる)」であることを知っていれば、簡単に正答が導かれる。

問2もまぎらわしい問いだったせいか、正答率が五八・七%で、やや低い。③を正解に選んだ人が多かったが、「自分も戦場で命を落とす」などという解釈の生まれる余地はないはずである。

続く問3の正答率は五五・四%で、問2以上に出来が悪かった。この三行選択肢の設問は、今回の中でも大人の感覚も要求されるので、その点では少し難しかったかもしれないが、今年のセンター試験でも夫婦の微妙な感情が問われるものがあったことを考えれば、対処しておきたいレベルの設問である。この場合、父と女性のやりとりから、ひさしは大人の複雑な感情を感じたのであり、女性の今後の状況まで推測したというように

は解釈できないはずである。

問4・問5はいずれも八〇%以上の高い正答率をみせている。標準的なレベルの設問では、しっかりとした読解力が発揮できていることがわかる。

問6は表現に関する設問で、選択肢①の正答率は八二・六%で高かったのだが、もう一方の⑥は一九・一%という低率で、アンバランスな結果となった。父と子の汽車の中での描写の中に、ひさしが過去を回想するシーンを挿入しているという構成は理解できたのだろうが、「息子と父親の絆の強さ」という部分に違和感を覚えたのかもしれない。③が四四・五%、⑤が二八・八%といずれも正答を上回っている。二つの誤答に共通しているのは戦時下の状況について、悲惨な方向に想像をたくましくしている点である。現在の我々の感覚で受けとめ、冷静な読解をこころがけることが必要だ。

第3問 (古文)

人物の言動と因果関係を整理して読解しよう!

平安後期の物語『とりかへばや物語』からの出題で、本当は女性である権中納言の言動を中心に宮中の人々の反応を述べた部分である。全体の得点率は三六・三%で、特に読解問題で苦戦した。

問1の語釈問題は、(ア)・(イ)は「なまめかし」や「なべてならず」など、重要古語の語彙を問う問題で、どちらも七割弱の正答率であったが、(ウ)は謙譲語の補助動詞「たてまつる」の解釈を誤つ

て、主語を取り違えた解答になっている④・⑤への誤答が多く、正答率は四割弱にとどまったが、そもそも「ばや」が自分の動作の実現の願望であることがわかっていれば、④・⑤は選ばない。まだ、重要古語が身に付いていないようだ。

問2は敬意の対象を問う問題。a・bについては六割の正答率が得られたが、cが権中納言だけではなく、兄の督の君にも敬意が払われていることが読み取れず、正答率は二割強にとどまった。傍線部直前の「かたみに」に注意しよう。

問3は、宮中の女性たちが、つれない態度の権中納言に立ち止まってほしいと願っている様子を、和歌を踏まえて読み取る問題で、三割を切る正答率であった。主語を権中納言とした誤答②に四割近くの選択が集まったが、傍線部は女性たちの視点で書かれている。

問4は和歌の説明として適切でないものを選ぶ問題で、約三割の正答率であった。歌を詠みかけてきた女性に対して、ただちに私もあなたに心が乱れてしまったとは詠んでいない。心乱れたのは相手の女性で、あなたはどなたですかと聞いているのである。同様に名乗ってほしいという積極的なDの歌が誤りとした④への誤答が多かった。

問5は権中納言のどのような点が玉に瑕なのかを読み取る問題で、女性の身分によって対応が異なるという③の正答率は二割程度であった。歌を巧みに詠むかどうかによるとした誤答②は正答率を越えて四割近くあった。

問6の内容合致問題の正答率は三割を切り、誤答も分散した。誤答で最も多かったのは④である

が、歌を詠みかけた女性が女御の妹と見えたから押し入らなかつたのではなく、権中納言自身が女性だからである。書かれている結果は正しくとも、因果関係が異なるものは選べないことに注意しよう。

第4問 (漢文)

登場人物の行動が何を意味するのか、本文を根拠に読み取ろう。

朱熹の『宋名臣言行録』から彭思永の聡明な逸話を述べた文の出題で、得点率は四九・一％であった。彭思永がとつた言動とその理由を読み取りながら整理しよう。

問1は語の意味を熟語で答える問題で、①は「信用」に足るかどうかという意味で、文脈に入られて判断できたため、七割を超えた。⑥は「お札」の意味は読み取れても「報謝」の意味でやや迷ったかもしれない。六割弱の正答率であった。

問2は、短文の解釈の問題で、Iは「自然」の解釈が鍵であるが、天賦の才能としての④を選ぶ。正答率は四割であった。一般の人より秀でているという②への誤答が多く、二割を超えた。IIは「数」と、限定「耳」がポイントで約四割の正答率であった。「数」はそのまま数量を表すが、「たびたび・ちよつと」の意ととらえた誤答②・⑥がやや目立った。

問3は彭思永が落とし主にかんざしの詳細を聞いた理由を問う問題で、かんざしの特徴が一致するか確認した⑤を選ぶが、正答率は六割を超えて良くてきた。かんざしを拾った状況を彭思永が説

明したという①への誤答がやや多かった。  
問4は仮定「若」と反語「耶」に注意し、返り点と書き下し文の組み合わせを選ぶ問題で、約五割の正答率であった。「若」を比況で読んだ誤答が合計で四割弱、「耶」を疑問で読んだ誤答が合計で三割それぞれあった。解説のまとめをよく読んでおきたい。

問5は礼を受け取らなかつた彭思永の考えに感服した吏の心情を問う問題で、四割の正答率であった。悪意をもって謝礼を求め③・④への誤答はやはり少ないが、善意であるが無条件の清廉さを前面に出した選択肢⑤への誤答が二割を超えて、やや多かった。漢文としてはそれらしい選択肢であるが、本文を根拠に選ぶようにしたい。

問6は、第二段落以降で人々が彭思永に感服した理由を問う問題で、これも四割弱の正答率であった。第一段落の内容も要約してしまった①・②への誤答も二割を超えた。自らが困っても盗んだ人物をかばったのであるが、事が露見するようにしむけたとする③への誤答も二割を超えて多かった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆語彙力・知識事項の強化を集中して行おう！

現代文では読解の前提となる語彙力・知識事項をおろそかにしてはならない。漢字・語句の問題集などを使った基礎学習は一通り終わっているだろうか。まだ終わっていない人や苦手意識のある

人は繰り返し学習し、確実なものにしておきたい。その際には、評論でよく用いられる言葉や、小説で用いられる心情語なども集めた問題集を選ぶとよいだろう。

また、センター試験の古典は読解問題中心ではあるが、基本的な知識がなければ内容をきちんと読み取ることが絶対に不可能である。今の時期に、古典文法は全範囲、少なくとも助動詞までは終わっており、漢文の句法も一通り終わっていることが望ましい。まだの人は手持ちの単語集や参考書を使って繰り返し学習しよう。基本知識の習得は読解問題を解くための大前提である。

◆過去問研究を始めよう！ 過去問を解いて傾向を知ろう！

過去問演習はもう始めているだろうか。まだ早い、と思っている人もいるかもしれないが、センター試験の国語はボリュームも多くレベルも高い。時間との戦いも制する必要がある。ぜひ早めにスタートさせてほしい。過去問を解いてみることで、さまざまなことに気づかされ、そこから次のステップに進むことができるようになる。ただし、ある程度の分量をこなさないと本当にわかったことにはならない。この夏、ある程度の分量をこなそう。また、その際には、「解く順序」や「時間配分」も意識するとよい。具体的な目標を立て、実践したうえで、次回の「第3回8月センター試験本番レベル模試」に臨んでほしい。